まほろば幸いネット通信 特集号 2017

【奈良市】
（福）晃宝会、（福）奈良市和楽園、
（福）万葉福祉会、（福）カトリック聖ヨゼ
フホーム、（福）大和まほろば会、（福）佐保会、（福）
福寿会、（福）秋篠茜会、（福）サンライフ、（福）
バルツァ事業会、（福）青葉仁会、（福）
ならやま会、（福）東大寺福祉事業団、
（福）奈良市社会福祉協議会、【大和高
田市】（福）平沼寮、（福）慈光園、（福）太樹会、
（福）青垣園、（福）大和高田市社会福祉協議会【大和郡山市】
（福）協同福祉会、（福）博遊会、（福）大和郡山育成
福祉会、（福）大和郡山市社会福祉協議会【天
理市】（福）やすらぎ会、（福）天寿会、
（福）大和清寿会、（福）だるま会、（福）
共生福祉会、（福）天理市社会福祉協議会【橿
原市】（福）聖寿会、（福）三養福祉会、（福）
うねび会、（福）長生会、（福）奈良
福祉会、（福）橿原手をつなぐ育
成会、（福）徳眞会、（福）橿原市社
会福祉協議会【桜井市】（福）大和桜
井園、（福）清光会、（福）敬生会、（福）
桜井市社会福祉協議会【五條市】（福）三寿福祉
会、（福）はーとらんど、（福）祥水園、（福）泰久会、
（福）嚶鳴学院、（福）五條市社会福祉協議会、
【御所市】（福）仁南会、（福）明徳
会、（福）あすなろ【生駒市】（福）
長命荘、（福）宝山寺福祉事業団、（福）みやび、
（福）どんぐり、（福）生駒市社会福祉協議会【香芝市】
（福）蒼隆会【葛城市】（福）当麻園、（福）葛
城市社会福祉協議会【宇陀市】（福）室生会、
（福）豊生会、（福）弘道福祉会、（福）
徳成会、（福）宇陀市社会福祉協議会【山
添村】（福）大和会、（福）山添村社会福祉協議会
【三郷町】（福）仁福祉会、【田原本町】（福）いわれ会、（福）
奈良県社会福祉事業団【曽爾村】（福）曽爾村社会福
祉協議会【御杖村】（福）御杖村社会福祉協議会
【高取町】（福）奈良県手をつなぐ育成会、
（福）朱鳥会、（福）高取町社会福祉協議
会【明日香村】（福）明日香楽園、（福）明日香
村社会福祉協議会【上牧町】（福）郁慈会、
（福）上牧町社会福祉協議会【広陵町】
（福）信和会、（福）陽【河合町】（福）
平安会【吉野町】（福）太陽の村、
（福）吉野町社会福祉協議会【大淀
町】（福）綜合施設美吉野園、（福）大
淀町社会福祉協議会【下市町】（福）下市町社会
福祉協議会【十津川村】（福）こだまの会【東吉野
村】（福）東吉野村社会福祉協議会【県域】
（福）奈良県社会福祉協議会

The 1st anniversary

イメージキャラクター
まほちゃん

「奈良県社会福祉法人共同事業」
（まほろば幸いネット）
キックオフセミナーから1年。
すでに奈良県内の社会福祉法人
88法人が加入。
その力強い行動力は
奈良を明るく照らす明かりです。
この1年を振り返りながら
次のステップに向けた
「特集号」としてお届けします。

まほろば幸いネット運営事務局

「奈良県社会福祉法人共同事業」（まほろば幸いネット）キックオフセミナーから1年。

「特集号」は、これまでを振り返り、次のステップにつなげることを目的に発行します。

平成28年6月2日、地域における様々な福祉課題や制度の狭間の問題に対応することを目的に、県内の社会福祉法人による協働・連携の取り組みとして「奈良県社会福祉法人共同事業（まほろば幸いネット）」がスタートし、「暮らしにくさ」を抱えている人に寄り添い、支援できる仕組みづくりを目指して取り組んでいます。

このたびの「まほろば幸いネット通信」では、昨年の「キックオフセミナー」から1年が経過したことを節目として、これまでの取り組みを振り返り、次のステップに向けた特集号として発行します。

本紙を通じ、県内の社会福祉法人による取り組みについて、県民のみなさま、そして県内社会福祉関係者のみなさまに広く知っていただき、ご理解いただく機会となれば幸いです。

平成28年11月25日 開催

目次

- 第一部「志」と「足跡」 …… P. 3
- 第二部「想いをつなぐ」（会員法人インタビュー） …… P. 5
- 第三部「期待」と「応援」（県、学識者からのメッセージ） P. 9
- 第四部「次のステップへ」 …… P. 11
- 共同宣言、運営理事会名簿 …… P.13
- 会員法人一覧、編集後記 …… P.14

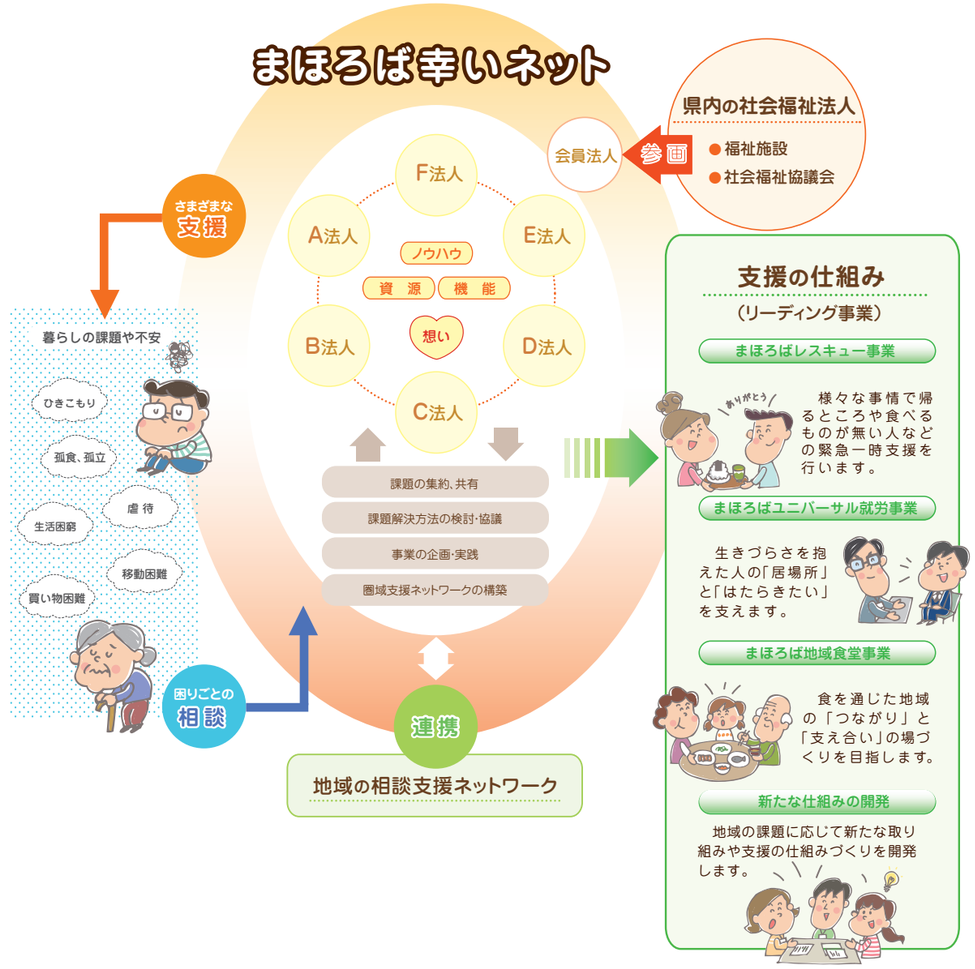
ご存知でしたか？

「まほろば幸いネット」の機能と役割

地域には社会的孤立やひきこもりなど「暮らしにくさ」を抱えているにも関わらず、制度の狭間などにあるため支援が得られない人や行き届いていない人が増えています。

まほろば幸いネットは、県内の社会福祉法人が有している専門性や資源を活かして、これらの課題に幅広く対応することを目指す支援のネットワークです。

県内の社会福祉法人が協働・連携して支援の仕組みづくりや実践の開発をおこない、一人ひとりの暮らしを良くするための取組を実践していきます。



■ 第一部「志」と「足跡」

これまでの経過
●1年を振り返って

2016

平成28年
設　立

出　発

平成28年6月2日、地域における様々な福祉課題や制度の狭間などにある生活課題に対応することを目的に、奈良県内の社会福祉法人による協働・連携の取組として「奈良県社会福祉法人共同事業（まほろば幸いネット）」がスタートしました。

目 的 地

「一人ひとりがともに支え合う地域社会」をめざして、次の4点に取り組みます

○「暮らしにくさ」や制度の狭間にある福祉課題や生活課題に対応します。
○社会福祉法人が有している資源・ノウハウ・機能を活かします。
○県内の社会福祉法人が連携・協働して地域貢献活動に取り組みます。
○社会福祉法人の使命である地域のセーフティーネットとしての役割を果たしていきます。

組　織

1. 運営理事会　事業の意思決定、運営統括
2. 事　務　局　奈良県社会福祉協議会
3. 総合企画チーム　実務者チーム活動の取りまとめ、総合調整
4. 実務者チーム　地域課題解決に向けた具体的な支援策の企画・立案・実施

平成28年
歩　み

取り組み

平成28年10月から地域の課題に対応するための取り組みとして、実務者チームを編成し、3つのリーディング事業に取り組んでいます。

【実践1】まほろばレスキュー事業
様々な事情で帰るところや食べるものが無い人などの緊急一時支援を行います。

【実践2】まほろばユニバーサル就労事業
生きづらさを抱えた人の「居場所」と「はたらきたい」を支えます。

【実践3】まほろば地域食堂事業
食を通じた地域の「つながり」と「支えあい」の場づくりを目指します。

共同宣言

平成28年
団　結

キックオフセミナー

平成28年11月25日、かしはら万葉ホールに県内の社会福祉法人が集結しました。『共同宣言』では、自分からSOSを出せない人などに対して、支援の仕組みづくりと実践の開発を強力に推し進めていくことを盛り込んだ宣言を採択しました。

○トークセッション
「奈良発!オール社会福祉法人で社会貢献・地域貢献に取り組もう」
○共同宣言
○記念講演

2017

平成29年
仲　間

法人の加入状況

会員数　88法人（県内社会福祉法人数:226）
○社会福祉施設法人　67（老人44 保育5 障がい17 児童1）
○市町村社会福祉協議会　20（市10 町5 村5）
○奈良県社会福祉協議会　1　（平成29年10月末現在）

平成29年
歩　み

実務者研究チーム発足

テーマ『地域生活を支える社会福祉法人による後見的支援の取り組み研究』
判断能力が不十分なために普段の生活に不安を抱えておられる人の権利擁護支援のあり方や仕組みづくりについて考え、必要な方策を探ります。

『高い志の旗を掲げよ』

まほろば幸いネット運営理事会　会長 辻村 泰範
（社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 理事長）

今、社会福祉法人への期待が大きく膨らんでいる。改正社会福祉法の意図するところもそこにあると思う。社会や地域に対し、今まで以上に大きな貢献が期待され、その存在意義が問われていると言ってもいい。国は法律の改正によって社会福祉法人に地域への貢献活動を義務付けたというのだが、重要なのはそのことではない。

法律に根拠を求めるのではなく、我々の志にこそ、その必然性を自覚しようではないか。かつて、国のまほろばと称されたここ大和は、単に自然景観の美しさだけが謳われたわけではない。暮らしやすさ、人の優しさも心を打ったのである。近年になって様々な福祉制度が整備され充実してきたことも事実ではあるが、一方ではその隙間に落ち込んでしまう人たちや、制度を適用するために生じるタイムラグ、福祉サービスを利用することへの躊躇、福祉の制度や仕組みそのものを知らずに困難な環境にさらされてしまっている人たちなど、従来の福祉の枠組みでは対応が難しいケースの増加が指摘されている。

声を出せずに支援を必要としている人々、何はともあれ支援が必要な人々、目にし耳にする厄介なケースに出会うたびに血が騒いでくるのが福祉に携わる人たちの本能ではないだろうか。

法人や施設での独自の活動はもちろんのこと、幾つかの法人が連携して互いに協力する態勢を構築することは鬼に金棒といったところである。「天網恢恢疎にして漏らさず」という諺がある。天に広がる網は広大で隙間だらけであるが、どんな些細な悪事も善業も見逃さないで報いを与えるといった意味である。悪事はともかくとして、まほろば幸いネットは緩やかな隙間だらけのように見えていても、いざとなればどんな些細なSOSも見逃さずすくい取る網を広げたいのである。みんなが高い志の旗を掲げようではないか。

■ 第二部「想いをつなぐ」

●社会福祉法人の想いをカタチに

特集号の発行にあたり、まほろば幸いネットの会員法人のみなさまへインタビューをさせていただきました。インタビューでは、それぞれの会員法人が「なぜ、地域貢献活動に取り組むのか」、率直な気持ちや地域への想い、そして、そんな想いをカタチにするための実践事例やエピソードなどをお聞きしました。

支援内容

まほろばユニバーサル就労事業

生きづらさを抱えた人の「居場所」と「はたらきたい」を支えます。

支援内容

まほろば地域食堂事業

食を通じた地域の「つながり」と「支え合い」の場づくりを目指します。

支援内容

まほろばレスキュー事業

様々な事情で帰るところや食べるものが無い人などの緊急一時支援を行います。

［特集！会員法人インタビュー］

インタビュー1 ●社会福祉法人祥水園
理事長　塩崎　万規子　氏

インタビュー2 ●社会福祉法人協同福祉会
理事長　村城　正　氏

インタビュー3 ●社会福祉法人
奈良県手をつなぐ育成会
理事長　小西　英玄　氏

インタビュー4 ●社会福祉法人太樹会　和里
施設長　吉川　聡史　氏

インタビュー5 ●社会福祉法人
奈良市社会福祉協議会

インタビュー6 ●社会福祉法人青葉仁会
理事長　榊原　典俊　氏

［まほろばユニバーサル就労事業］

インタビュー1

本人の気持ちを自分ごととして
大事にしたいと思っています

「本人の気持ちを大切に」
～自分事として本人の後押しを～

社会福祉法人祥水園　理事長　塩崎　万規子　氏

はじめは就労支援をしているつもりはありませんでした。当法人の職員が若者サポートステーションへうかがうようになったことがきっかけで、「働きたい」気持ちがあるのに何らかの事情で「働けなくなっている」人がいることを知りました。一般就労の環境には馴染めない人が多いと聞いていたので、『それだったらうちの施設に遊びにきてもらったらええやんか』っということがはじまりでした。初めはボランティアから、そして本人の状況に応じて自由な働き方ができるアルバイト職員として雇用するようになりました。

当初は現場から『接し方がわからない』、『自由といっても放っておけない』、『ご利用者だけで精一杯』と、戸惑いや苦情が続出。“自分はたまたまそうならなかっただけ”ということを現場と何度も話し合い今に至っています。でも、トイレにこもって出てこない人、現場からいなくなる人、すぐに辞めてしまう人など、成功事例ばかりではありません。特に施設のチームリーダーになってもらう予定だった人が転職した時の空しさは大きかったです。でも、それ以上にステップアップの支援ができた喜びの方が勝っていました。私以上に職員が本人の成長を喜んでいたのが印象に残っています。この経験は法人と職員にとって大きな意義があったと思います。現在、何人かは正規職員としてバリバリ活躍してくれています。ちょっとした後押しと本人の気持ちを自分ごととして大事にしたい、そんな思いが結果として就労支援になっています。

インタビュー2

地域で困っている人がいれば
放っておけません

「地域に根ざした社会福祉法人として」
～安心してくらせる地域づくりの一翼を担う～

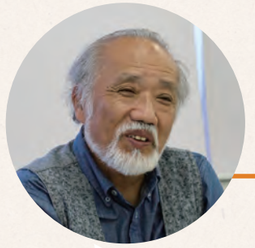
社会福祉法人協同福祉会　理事長　村城　正　氏

当法人では、4年前から地域貢献活動の一環として「ユニバーサル就労」を制度化しました。目的は、「働きたいのに働きにくい人」が身近な地域で働ける仕組みづくりです。きっかけは、ご利用者のお孫さんがひきこもり状態になられているのを知ったこと。現在、21名がこの制度を活用され、サポーターから一般就労まで、ご本人にあわせた幅のあるはたらき方をされています。必ずしもステップアップを希望される人ばかりではありませんが、ご本人の目的や思いを尊重しながら支援しています。大変さはありますが、この制度をきっかけに業務分担の見直しや仕事の効率化が図られるなど、職場の環境改善にもつながっています。

現在、地域の福祉･介護の支援拠点として県内にいくつかの施設･事業所を構えていますが、そこで実際に見えてきたのは、地域には行き場の無い人がいるという実態です。障がいを抱えておられる人、孤立されている人、生活に困窮されている人など、放っておけば生活そのものが成り立たなくなる可能性のある人が増えています。“地域で困っている人がいるのであれば放っておけない”、ユニバーサル就労に取り組んでいる本質的な理由もそこにあります。地域の人と安心して暮らせるまちづくりについて共に考え、その一翼を担うことが社会福祉法人の役割であり地域貢献だと思っています。これからも地域で暮らす人を放っておかない社会を目指し、地域に根ざした社会福祉法人を貫いていきたいと思います。

［まほろば地域食堂事業］

インタビュー3



「法人共同で目指す地域の拠点づくり」

～地域の思いと法人の思いを互いに共有し合いながら～

社会福祉法人奈良県手をつなぐ育成会　理事長　小西　英玄 氏

継続することが大切だと思っています

高取町では、まほろば幸いネットをきっかけに町内４つの社会福祉法人が協働して「たかとりふれあい食堂」に取り組んでいます。それぞれが独立した法人なので組織文化の違いがあったり調整に時間がかかることはありますが、同じ目的をもって一緒に取り組むことで法人同士の顔が見える関係やネットワークづくりにつながっていることに意義を感じています。また、それぞれの違いが良い刺激となり、職員の仕事に対する意識の変化や違った発想が生まれるなど、人材教育としての要素も得られているように感じています。

ふれあい食堂は、食を通じて地域の人が集い、つながり、支え合う地域 の拠点づくりを目指して取り組んでいますが、いざやってみると地域へ出て行くことの大変さを痛感しています。「地域に貢献したい」という思いがあっても、地域が無条件でそれを受け入れてくれるとは限らないところに難しさがあります。法人の思いを地域へつなげるために、地域の流儀にも配慮しつつ、どのようなアプローチができるのかを試行錯誤しているところですが、地域の一員として認めてもらうためには継続することが大切だと思っています。少しずつではありますが、自治会の人を中心に顔が見える関係ができつつあるので、地域の思いと法人の思いを互いに共有し合える関係をつくっていきながら、ふれあい食堂が地域の拠点となるべく町内の法人と協力して取り組んでいきたいと思います。

インタビュー4

「つぶやきをカタチに」

～地域の人たちと共通の価値観を築いていく～

社会福祉法人太樹会 和里（にこり） 施設長　吉川　聡史 氏

つぶやきはひとつの手がかりだと思っています

当法人にある高齢者施設では、数年前からコミュニティカフェ『和gen』（わげん）を実施しています。誰もが気軽にゆったりと過ごせる交流の場として、施設の入居者、利用者、そして地域の高齢者が主な参加者になっています。

『和gen』をはじめたのは、いろいろな「つぶやき」を拾える場所がほしいと思ったから。たとえひとりのつぶやきであっても、自分たちにとってはひとつの手がかりになると思っています。それは、地域の課題やニーズ、施設をより良くするためのヒントなど、自分たちのあるべき姿を確認するための根拠であり、評価でもあると思っています。毎月第３金曜日に居酒屋を開店していますが、これは地域の高齢者がつぶやいた「酒があったらもっと施設に行くよ」がきっかけ。『和gen』では居酒屋以外にカフェを毎週土曜日、ランチを月１回開店していますが、いずれも参加者の呼び込みや周知が課題だと感じています。また、何気なくやっているだけでは地域に貢献できる何かを見つけることは難しいことに気づいたので、最近はつぶやきを記録化したり、意図的な聞き取りをして内部で共有しています。社会と交わる、人と関わるという法人理念を形にしたのが『和gen』。つながり・関係性の構築、 広がりの可能性を有していると考えていますが、今はまだ手探り状態です。つぶやきを手がかりにいろいろな方法を試し悩みながら、地域の人たちと共通の価値観を築ける機会や居場所を増やしたいと思っています。

［まほろばレスキュー事業］

インタビュー5

「制度の狭間にある困りごと」

～法人連携で狭間を見逃さない仕組みを～

社会福祉法人 奈良市社会福祉協議会

ひとつの機関だけで解決できることは限られています

本会では、生活困窮や権利擁護をはじめとする、地域住民の日々の生活に関する困りごとの総合相談を受けています。最近は困りごとの背景に複雑な問題が絡まり合っている相談が多くなっているため支援する側としても対応の難しさを感じています。例えば、ひきこもりやゴミ屋敷に関する相談などは、ひとつの制度や機関だけでは対応が難しいため、結果的に縦割りの制度の狭間に陥りやすくなってしまいます。生活に困窮された方の事例では、できる限り自分で何とかしようとされ、手持ち現金が数百円で食べるものも買えないギリギリの状態になってからようやく相談に来られる方もおられます。生活保護の手続きを進めても現金が支給されるまでに時間がかかるため、それまでの間は何らかの支援が必要になります。そのほかにも、生活に困窮する外国籍の方の生活全般に関する相談や、制度の利用に向けた相談や手続きを自身で行えず困られている方など、既にある制度だけでは対応が難しい相談が年々増えているのが現状です。日々の相談においては、できるだけ相談者の困りごとを受け止めるようにしていますが、ひとつの機関だけで解決できることは限られています。本会では、このような状況を深刻に受け止め、制度の狭間をうめる取り組みである「まほろば幸いネット」に参画し、社会福祉法人がもっている資源（食品、日用品、衛生品など）をいま困っている人につなげる仕組み（まほろばレスキュー事業）づくりに向けて取組んでいるところです。この事業だけで全ての解決には至らないと思いますが、制度の狭間を埋めるために必要な仕組みだと思っています。地域にある社会福祉法人が連携・協働すれば支援の幅が広がるとともに、各法人が地域の相談拠点となることで発見機能が高まり、1つでも多くの支援につなげられる仕組みができると思います。

インタビュー6

「社会福祉法人の資源を活かして」

～生きづらさを支えるのが福祉の根本～

社会福祉法人青葉仁会 理事長　榊原　典俊　氏

困っている人と共に何ができるかを考えることが大切

当法人は、障がいのある人の暮らしや働くを支援することを目的に入所施設をはじめ、カフェレストランなどの就労支援事業等を実施しています。長年事業をやっていると、これまでにいろいろな場面に遭遇してきました。ひきこもりの息子を何とかしたいという親御さんからの相談、食事に困ってこられる高齢者、シングルマザーの仕事の相談など、日頃の事業を通じて様々な課題やニーズがあることに気づきます。抱えているものはそれぞれ違いますが、共通しているのは『困っている』ということ、そして『誰にでも起こりうる』ということ。これまでも食事の提供、就労支援、気軽に集える居場所づくりなどに取り組んできましたが、大切なのは困っている人と共に法人として何ができるのかを考えることだと思っています。

様々な制度が整ってきてはいますが、それだけでは成り立たない社会になりつつあります。社会の中で生きづらいと感じている人がいるのであれば、それに応えるのが社会福祉の根本だと思っています。われわれ社会福祉法人がもっている資源やノウハウを活かすことでいろいろな支援のチャンネルが増えていきます。そしてより多くの法人がつながり、支援の仕組みをつくっていけば、更にそのチャンネルが増え、大きな支援のネットワークになっていきます。

それぞれの社会福祉法人がもっている資源を活かしたまほろば幸いネットの活動を、県内で更に拡げ、加速させることにより、これまでになかった広域的な支援が可能になると思います。

■ 奈良県からのメッセージ

「まほろば幸いネットに期待すること」

奈良県健康福祉部長　土井 敏多 氏
（まほろば幸いネット 参与）

県内の社会福祉法人はこれまでも、様々に独自の社会貢献をされてこられましたが、昨年6月、県内の社会福祉法人がともに手を携えて、様々な暮らしにくさを抱えた人々を地域で支援していこうという高い志のもと「まほろば幸いネット」が設立されました。

今、地域では、「放課後、居場所のない子ども」、「友達も話し相手もない孤独の中で子育てしているお母さん」、「近隣のスーパーが撤退して日々の買い物にも不自由している高齢者」など、制度の狭間の中で、SOSを出せずに生き辛い思いをされておられる人たちへ、地域から支援を届けていく取組が求められています。

社会福祉法人が、地域住民の一員として、持てる資源を活用して、困窮されておられる方々に支援の手を差し伸べることは、これからの奈良県の地域福祉にとって本当に大切なことと考えています。まほろば幸いネットを通して、社会福祉法人が種別を越えてネットワークでつながり、点から線へ、線から面へと、地域福祉を支える広域的な取組へと発展していく事に大きな期待を寄せています。

■ 学識者からの応援メッセージ

「地域貢献で福祉職場の魅力発信を」

同志社大学社会学部　教授 空閑 浩人 氏
（奈良県福祉・介護人材確保協議会 会長）

社会福祉を学ぶ学生たちのレポートや卒業論文を見ていると、テーマとして挙げられる内容は様々であるが、その年によっての傾向（流行?）があることに気づく。たとえば最近では、子どもの貧困、子ども食堂、ひとり親家庭、ひきこもり、認知症カフェ、社会的孤立予防、就労支援、居場所づくりなどが目立つ。ということは、このような事業に取り組んでいる法人や事業所に学生が集まるということにならないだろうか。すなわち、社会福祉法人が行う地域貢献活動は、学生たちの興味や関心を引くということである。

これからの社会福祉法人には、今日の地域における多様なニーズを把握して、それらに対応した事業展開や実践のあり方を自ら考えて実行すること、つまり組織としてのソーシャルワーク機能を発揮することが求められる。そしてそれは、職員にとっては、地域を基盤として、創意工夫に満ちた、創造的な仕事ができるということである。「これからの福祉の仕事はますます魅力的で面白くて楽しい」ということを学生たちに伝えていきたいと思う。

■ 学識者からの応援メッセージ

「民間性を発揮して存在意義を!」

同志社大学社会学部　准教授 永田 祐 氏
（厚生労働省／地域力強化検討会構成員）

私たちの社会では、家族や地域社会、雇用など、これまで暮らしを支えてきた中間集団が弱体化し、個人化が進んでいます。日本の福祉行政は、こうした集団の存在を前提に組み立てられてきたため、そこから切り離され、社会的に孤立する人をすくい上げることができなくなっています。社会福祉法人改革では、社会福祉法人の皆さんがこうした課題に取り組むことがその本旨であることが明確にされました。縦割りの制度に基づいた事業を行うだけでなく、制度のはざまの問題を解決するために、本来の民間性を発揮し、地域の様々な主体と協力しながら先駆的な事業を行っていくことが求められているのです。社会福祉法人の皆さんが、「まほろば幸いネット」の事業を通じてこうした課題解決の先頭に立つことで、制度のはざまで苦しむ人に支援の手をとどけることができるだけでなく、社会福祉法人としての存在意義を明確にすることができると確信しています。

これからの取り組み

2018～

活動の定着・促進

社会福祉法人による地域貢献活動の定着･促進に向けて、実践事例やノウハウを蓄積し、活動の支援体制を整えます。

- 実践交流
- 活動マニュアルの整備
- 事例の蓄積･発信
- 支援チームの編成

裾野の拡大

社会福祉法人による協働･連携の支援ネットワークを拡げるために、会員の加入促進を図り、地域貢献活動を実践する法人の裾野を拡げます。

- 会員加入促進
- フォーラム
- 学習会
- 活動情報の提供

情報発信

奈良県社会福祉法人共同事業の取り組みを広く発信し、福祉関係者並びに県民の理解を深めます。

- フォーラム
- 活動紹介（ホームページ等）
- まほろば幸いネット通信の発行

新しい仕組みの開発

複雑･多様化している地域の福祉課題に幅広く対応するために、新たな支援の仕組みの開発に向けた研究活動に取り組みます。

- 地域課題の把握
- 研究チームの発足

2/6（火）

地域貢献活動推進フォーラム開催!

県内の福祉関係者が一同に会し、社会福祉法人が地域貢献活動に取り組む意義を再確認するとともに、奈良県社会福祉法人共同事業の取り組みを広く発信することを目的にフォーラムを開催します。みなさまからのご参加をお待ちしております。

日時：平成30年2月6日（火）13:00～17:15（予定）
場所：奈良県文化会館　小ホール他
内容：◆基調講演
（仮）「社会福祉法人だから果たせる地域における役割」
～香川おもいやりネットワークの取り組みから見えてきたもの～
講師:香川おもいやりネットワーク事務局（香川県社会福祉協議会）
◆パネルディスカッション（パネラー調整中）
（仮）「奈良県社会福祉法人共同事業が目指すべき今後の方向性を探る」
◆分科会（リーディング事業のテーマ別分科会を予定）

お問い合せわせ先

奈良県社会福祉法人共同事業 事務局
〒634-0061
橿原市大久保町 320-11　（奈良県社会福祉総合センター内）
社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会 総務企画課
TEL.0744-29-0100　FAX.0744-29-0101
E-mail　soumu@nara-shakyo.jp

※キックオフセミナーにおいて、会員一同で下記の「共同宣言」を採択しました。

奈良県社会福祉法人共同事業（まほろば幸いネット）共同宣言

核家族化や少子高齢化の進行、地域でのつながりの希薄化等の要因により、社会的孤立や引きこもりなど「暮らしにくさ」を抱えているにも関わらず、制度の狭間などにあるため支援が得られない方がいるなど、私たちの暮らしを取り巻く課題は複雑・多様化しています。

現在進められている社会福祉法人の制度改革では、社会福祉法人に、地域社会に開かれた透明な運営と地域貢献活動の推進が強く期待されています。

また、県が策定した平成二十八年度から三ヶ年を計画期間とする「奈良県域地域福祉計画」にも、社会福祉法人の地域貢献活動の促進が施策の柱として位置づけられております。

こうした中、社会福祉法人には、地域住民や関係者としっかり手をつなぎ、全ての人が社会の一員として認められ、共に生き、共に支え合う地域社会づくりを進めていくことが求められています。

今、県内には、今日食べるものや住まいがない方、何十年と引きこもりの状況にある方、独り暮らしで隣近所とつながりがなく孤立している方など、支援が必要な方々も多くおられます。

今こそ、我々社会福祉法人は、この様な真に支援が必要な方々・自分でSOSを出せない方々などに対して、具体的な支援や地域での居場所づくりなどに取り組むことにより、社会福祉法人の存在意義を示していく時です。

本日ここに、「奈良県社会福祉法人共同事業キックオフセミナー」を開催するにあたり、私たち社会福祉法人関係者は一丸となって地域における様々な福祉課題・生活課題の解決に向けた支援の仕組みづくりと実践の開発を強力に推し進めることを決意し、ここに宣言します。

平成28年11月25日
奈良県社会福祉法人共同事業会員一同

◎奈良県社会福祉法人共同事業　運営理事会　名簿　（敬称略）

役　職	所　属・役　職		氏　名
会　長	奈良県社会福祉法人経営者協議会	会　長	辻村　泰範
副会長	奈良県社会福祉法人経営者協議会	副会長	榊原　典俊
副会長	奈良県社会福祉協議会	常務理事	竹内　輝明
理　事	奈良県社会福祉法人経営者協議会	理　事	塩崎　万規子
理　事	奈良県社会福祉法人経営者協議会	理　事	小西　英玄
理　事	奈良県市町村社協事務局長会	会　長	高原　俊裕
理　事	奈良県社会福祉協議会	事務局長	松下　員範
参　与	奈良県健康福祉部	部　長	土井　敏多

◎奈良県社会福祉法人共同事業　会員法人一覧　　＜法人事務局の所在地で掲載＞

【奈　良　市】	(福)晃宝会、(福)奈良市和楽園、(福)万葉福祉会、(福)カトリック聖ヨゼフホーム、(福)大和まほろば会、(福)佐保会、(福)福寿会、(福)秋篠茜会、(福)サンライフ、(福)バルツァ事業会、(福)青葉仁会、(福)ならやま会、(福)東大寺福祉事業団、(福)奈良市社会福祉協議会
【大和高田市】	(福)平沼寮、(福)慈光園、(福)太樹会、(福)青垣園、(福)大和高田市社会福祉協議会
【大和郡山市】	(福)協同福祉会、(福)博遊会、(福)大和郡山育成福祉会、(福)大和郡山市社会福祉協議会
【天　理　市】	(福)やすらぎ会、(福)天寿会、(福)大和清寿会、(福)だるま会、(福)共生福祉会、(福) 天理市社会福祉協議会
【橿　原　市】	(福)聖寿会、(福)三養福祉会、(福)うねび会、(福)長生会、(福)奈良福祉会、(福)橿原市手をつなぐ育成会、(福)徳眞会、(福) 橿原市社会福祉協議会
【桜　井　市】	(福)大和桜井園、(福)清光会、(福)敬生会、(福)桜井市社会福祉協議会
【五　條　市】	(福)三寿福祉会、(福)は一とらんど、(福)祥水園、(福)泰久会、(福)嚶鳴学院、(福)五條市社会福祉協議会
【御　所　市】	(福)仁南会、(福)明徳会、(福)あすなろ
【生　駒　市】	(福)長命荘、(福)宝山寺福祉事業団、(福)みやび、(福)どんぐり、(福)生駒市社会福祉協議会
【香　芝　市】	(福)蒼隆会
【葛　城　市】	(福)当麻園、(福)葛城市社会福祉協議会
【宇　陀　市】	(福)室生会、(福)豊生会、(福)弘道福祉会、(福)徳成会、(福)宇陀市社会福祉協議会
【山　添　村】	(福)大和会、(福)山添村社会福祉協議会
【三　郷　町】	(福)仁福祉会
【田 原 本 町】	(福)いわれ会、(福)奈良県社会福祉事業団
【曽　爾　村】	(福)曽爾村社会福祉協議会
【御　杖　村】	(福)御杖村社会福祉協議会
【高　取　町】	(福)奈良県手をつなぐ育成会、(福)朱鳥会、(福)高取町社会福祉協議会
【明 日 香 村】	(福)明日香楽園、(福)明日香村社会福祉協議会
【上　牧　町】	(福)郁慈会、(福)上牧町社会福祉協議会
【広　陵　町】	(福)信和会、(福)陽
【河　合　町】	(福)平安会
【吉　野　町】	(福)太陽の村、(福)吉野町社会福祉協議会
【大　淀　町】	(福)綜合施設美吉野園、(福)大淀町社会福祉協議会
【下　市　町】	(福)下市町社会福祉協議会
【十 津 川 村】	(福)こだまの会
【東 吉 野 村】	(福)東吉野村社会福祉協議会
【県　　域】	(福)奈良県社会福祉協議会

［ 編集後記 ］

奈良県社会福祉法人共同事業（まほろば幸いネット）がスタートしてから2年目を迎えました。これまでに無かった協働による新たな支援の仕組みづくりは容易ではありませんが、制度の狭間のニーズや深刻化している生活課題の解決に果敢に取り組むことは、社会福祉法人の本旨であり、社会からの期待に応えるために必要な取り組みです。

今後は、これまでの活動から見えてきた成果や課題を踏まえながら、本事業を充実するための取り組みを拡げるとともに、活動に必要な財源についても検討していきます。

今後とも県内の福祉関係者をはじめとするみなさまのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

まほろば幸いネット通信　特集号２０１７

発行日：平成２９年１１月２５日
発行者：奈良県社会福祉法人共同事業　運営理事会
（事務局）
〒634-0061 橿原市大久保町 320-11（奈良県社会福祉総合センター内）
社会福祉法人奈良県社会福祉協議会　総務企画課
TEL：0744-29-0100　FAX：0744-29-0101
E-mail：soumu@nara-shakyo.jp
HP：http://www.nara-shakyo.jp/publics/index/155/